



IBM Rational ClearQuest
アプリケーション ライフサイクル管理パッケージ
バージョン 1.3
リリース ノートとユーザー ガイド



目次

1. 概要.....	3
2. 前提条件	3
3. 本リリースの新機能	3
4. アップグレードの考慮事項	4
5. 既知の問題と制約事項	6

1. 概要

アプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) パッケージは、Rational® ClearQuest® 変更管理システムで、ALM のベスト プラクティスを確実に行うためのソリューションを提供します。アプリケーション ライフサイクル管理は、ソフトウェアのリリースを作成するためのチームの能力を効率化する、重要なイネーブラです。ソフトウェア開発の活動と資産を調整して、ソフトウェア アプリケーションのライフサイクル全体を通して制作と管理を行います。

ClearQuest ALM パッケージには、役割ベースのプロセスとセキュリティ モデルが用意されています。これにより、ソフトウェア開発プロジェクトの管理の基盤を作成する、密接に統合されたレコード タイプのコレクションを使用して、最適なパフォーマンスを得ることができます。

ClearQuest ALM のリリースには、新機能と前リリースで検出された問題の修正が含まれています。

ClearQuest ALM V1.2 パッケージが存在しますが、このパッケージは一般には入手できません。ClearQuest ALM V1.2 パッケージでの新機能およびフィックスはすべて、ClearQuest ALM V1.3 パッケージで入手できます。また、ALM V1.3 パッケージは、EmailPlus V2.1 および Attachments V2.1 パッケージの新バージョンに依存していることにも注意してください。この新リリースの詳細については、EmailPlus 2.1 リリース ノートおよび Attachments 2.1 リリース ノートを参照してください。

2. 前提条件

ClearQuest ALM V1.3 パッケージは、Rational ClearQuest V7.1.2 以降でのみ使用してください。このパッケージを V7.1.2 より前の ClearQuest バージョンで使用することはサポートされていません。

既存の ALM パッケージをアップグレードする場合、パッケージが ALM V1.0 以降でなければ ALM V1.3 パッケージにアップグレードすることができません。

3. 本リリースの新機能

IBM® Rational® ClearQuest® 7.1.2 およびアプリケーション ライフサイクル管理 V1.3 パッケージでは、一部のレコード スクリプト別名アクションでのポップアップ フォーム サポートが提供されます。ClearQuest 7.1.2 でのポップアップ フォーム サポートの詳細については、次を参照してください。

https://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cqhelp/v7r1m2/index.jsp?topic=/com.ibm.rational.clearquest.apiref.doc/topics/r_examples_openform.htm

ClearQuest アプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) V1.3 パッケージが提供するポップアップ フォーム サポートによって、ClearQuest ユーザーは以下の利点を得られます。

- タスクの実行に必要なクリック数が大幅に削減され、ALM V1.3 パッケージがさらに機敏になります。
- ポップアップ モードで、事前にデータが設定されたいくつかのフィールドのサポートが追加されます。また非ポップアップ モードでも、ワークフロー自動化のサポートが追加されます。
- 同一ワークフロー内の複数のポップアップ フォームのサポートが追加されます。

ALM V1.3 パッケージのポップアップ フォーム サポートは、次のアクションと ALM レコード タイプの場合に有効です。

- ALMRequest の QuestionOrComment および CreateTask
- ALMTask の QuestionOrComment および CreateActivity
- ALMActivity の QuestionOrComment

ALM V1.3 パッケージより前では、これらのアクションで子レコードが作成されましたが、入力するにはユーザーがそれを見つけて開く必要がありました。ClearQuest V7.1.2 以降を使用した ALM V1.3 パッケージおよびポップアップ フォーム サポートでは、これらのレコード スクリプト別名アクションが、関連子レコード フォームを作成するときにそのフォームを開くので、ユーザーがこれらのレコードを変更して保存できるようになります。アクションによって複数の子レコードが作成される場合、ポップアップ フォームがユーザーに連続的に提示されます。このポップアップ機能は、ClearQuest Web および ClearQuest Eclipse で ALM V1.3 パッケージを使用する ClearQuest V7.1.2 でのみ使用できます。ClearQuest ネイティブ Windows クライアントを実行している場合は、レコード スクリプト別名はポップアップ フォームを提供せず、その動作は ALM V1.0 または V1.1 パッケージを使用する際と同じです。

4. アップグレードの考慮事項

ClearQuest ALM V1.0 または V1.1 パッケージから本リリースにアップグレードする場合は、以下のことを考慮してください。

1. ApprovedActions を実行する必要がある役割について、ALMRequest::CreateTask を ALMRole->ApprovedActions に特に追加する必要があります。ClearQuest ALM V1.0 パッケージでは、これは不要でした。
2. ALMProject::SetDefault は、どの ALMRole でも不要になりました。役割にはすべて、デフォルトのプロジェクトを設定する権限があります。この承認済みアクショ

ンを ALMRole->ApprovedActions リストから削除する必要はありませんが、追加する必要もなくなりました。

3. CopyProject を実行する前に、すべての ALMWorkConfigurations に PrimaryRole が指定されている必要があります。レコード タイプが ALMTask および ALMActivity の ALMWorkConfigurations でこのフィールドがブランクの場合、プロジェクトのコピー アクションは失敗します。
4. ALM V1.1 パッケージ以降、"AssignedToAllRejectedRequests" にチェック マークを付けて、少なくとも 1 つの ALMProject を指定する必要があります。
5. 「すべて」のプロジェクトを廃止にマーク付けしていた場合は (ClearQuest ALM 1.0 で、拒否された要求に対してのオプションなしで使用)、ALMProject を変更する前に [カテゴリ] -> [廃止] チェック ボックスをクリアする必要があります。クリアしないと、そのプロジェクトに対して「すべて」カテゴリがオプションとして表示されないため、"AssignedToAllRejectedRequests" チェック ボックスを設定できません。これは、ClearQuest ALM 1.0 では適切に動作しなかった [廃止] 設定が適切に動作するようになったためです。「すべて」のプロジェクトを "AssignedToAllRejectedRequests" プロジェクトとなるように更新すると、もう一度 [ALMCategory] -> [廃止] チェック ボックスを変更して、「すべて」カテゴリがユーザーにとって負担の大きい選択ではないようにすることができます。「すべて」のプロジェクトは、これを変更または状態遷移しない限り、適切に動作します。「すべて」のプロジェクトを変更する必要がある場合は、このプロセスを繰り返します。
6. ALMRequest および ALMActivity についての優先順位選択を表示するには (ALM 1.1 で追加された ClearQuest の新機能)、[レコード タイプ] を ALMRequest および ALMActivity レコード タイプに設定し、[タイプ標識 (Type Indicator)] を優先順位に設定して、新規 ALMType レコードを追加する必要があります。
7. Rational ClearQuest V7.1.2 で UTF-8 コード ページを使用する場合は、DCF ダウンロード サイトからの ALMWork、Attachments、および EmailPlus パッケージの適用には特殊な手順があります。これを行う方法のガイドラインは、次の Rational サポート サイトから入手できます。
http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?rs=0&q1=1414422&uid=swg21414422&loc=en_US&cs=utf-8&cc=us&lang=all
8. ALM 1.0 から ALM 1.1 または ALM 1.3 に移行すると、[件名] フィールドが ALMComment レコードに追加され、このフィールドは必須になります。ALM 1.0 で作成された ALMComments を編集する場合、[件名] 行はないのに、件名を入力する必要があるため、これが問題となります。

この制約事項の回避策の 1 つは、次の DB2 SQL コマンドを使用して、すべての ALMComments をブランクの件名で更新する方法です。

```
---IBM DB2 UDB 8.1 or above
-- ALM 1.0 to ALM 1.1 or 1.3 Upgrade

-- Set the value of the Subject field on ALMComments to the first
-- 254 characters of the comment itself.

---DB2ADMIN needs to be substituted with what is on your database

UPDATE DB2ADMIN.ALMCOMMENT ALMCOMMENT
SET SUBJECT =
CASE
    WHEN (LENGTH(COMMENTS) > 254) THEN
SUBSTR(COMMENTS,1,251) || '...'
    ELSE SUBSTR(COMMENTS,1,254)
END
WHERE ALMCOMMENT.SUBJECT IS NULL;
```

注: その他のデータベース製造元の場合は、同等の構文を使用してください。

5. 既知の問題と制約事項

1. Microsoft SQL Server 2005 で管理された ClearQuest スキーマ リポジトリとユーザー データベースを使用して、ClearQuest ALM パッケージ (DCF ダウンロード サイトからダウンロード) を使用時に、失敗したフック実行の問題が検出されました。この問題は次の構成の場合であると切り分けられました。

- Windows 2003 中国語 (簡体字) OS + ClearQuest v7.1.1 + LMWork 1.3.3 パッケージ + SQL Server 2005

- Windows 2003 日本語 OS (WindowsServer2003-KB945142-v2-x86-JPN.exe の有無に関係なし) + ClearQuest v7.1.1 + ALMWork 1.3.2 パッケージ + SQL Server 2005

- Window 2003 中国語 (簡体字) OS + ClearQuest v7.1.1 + ALMWork 1.3 パッケージ + SQL Server 2005

ALMRequest の作成時に、次のエラーが表示されることがあります。

「リソース作成時の問題: Open アクション中にフックの実行に失敗しました。(Problem creating resource: Execution of a hook failed during the action Open.) このフックは、ALMRequest "SAMPL00000020" に付加された AttachmentsErrorText

フィールドの FIELD_PERMISSION フックでした。(It was the FIELD_PERMISSION hook of the field AttachmentsErrorText, attached to the ALMRequest "SAMPL00000020".) 失敗の理由は、main::attachmentserrortext_Permission の行 416 でパッケージ "AXPAttachment" を介してオブジェクト メソッド "FormatTraceInfo" を見つけられなかったためです (おそらくは "AXPAttachment" をロードし忘れたのではないですか)。(The reason for the failure was: Can't locate object method "FormatTraceInfo" via package "AXPAttachment" (perhaps you forgot to load "AXPAttachment" ?) at main::attachmentserrortext_Permission line 416.)」

または

「エラー。(Error!) Open アクションのフックの実行時に失敗しました。(It failed when executing the Hook of Open Action.) このフックは ALMRequest "AdEntity@0x03a5cd20.dbid=0.id=0" の ACTION_ACCESS_CONTROL です。(The Hook is ACTION_ACCESS_CONTROL in ALMRequest "AdEntity@0x03a5cd20.dbid=0.id=0".) エラーの理由は、未定義サブルーチン &main::almrequest_AccessControl が呼び出されたためです。(The reason of Error is: Undefined subroutine &main::almrequest_AccessControl called)」

現時点では、この問題の解決策または回避策はありません。解決策があるときには、サポート テクニカル ノートが発行されます。

2. スキーマを拡張する場合には、グローバル変数名または関数名を次の文字で始めないことをお勧めします。

ALM_

これにより、既存の ClearQuest ALM グローバル変数名および関数名との混同を引き起こす場合があります。

以下に、ALM V1.3 ポップアップ フォーム サポートの既知の問題と制約事項を示します。

3. ClearQuest Web クライアントでは、新規のタブには新規 ClearQuest フォームが常に表示され、親レコード フォームが浮動ウィンドウにある場合は、新規の子レコードは親フォームの背後になり、フィールド値の入力が困難になります。この問題に対処するには、次のいずれかの処置を行います。
 - 浮動ウィンドウを最小化して、タブにあるレコードを編集する。
 - [ユーザー プリファレンス] → [結果セット] → [関連レコードの開き方] を選択し、オプションを「タブ」に設定することにより、ユーザー プリファレンスを変更して浮動ウィンドウを回避する。
4. 子レコードを保存する前に親フォームを閉じると、「レコードのコミット中にエ

ラーが発生しました」というエラー メッセージが表示されます。このエラーは機能に影響を与えず、無視できます。

5. 次は **Schema Designer** に関する情報です。複数の子レコードが作成されることがありますが、最後に、すべての子レコードが処理されたことの通知はありません。しかし、スキーマを変更して、このような通知を追加することができます。例えば、すべての子タスクが処理されたときに、通知メッセージを提示する場合は、次のアクションを行います。

- a. 次のサイトからのグローバル スクリプト "Generating a custom message" をユーザーのスキーマにコピーします。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?rs=939&uid=swg21322606>

- b. 次のコードを **CreateChildRecordSave** レコード スクリプトの行 **OpenNextChild();** の後に追加します。

```
$msg_summary = "Information";    # the message box  
title  
  
$msg_details = "All tasks have been created for this  
request, please refresh the form to find the new  
tasks";    # whatever message you want to appear in  
the message box  
  
DieWithCustomMessage("INFO", $msg_summary,  
$msg_details);
```

6. ポップアップ フォーム スクリプト記述を起動するワークフローを完了すると、親レコードには、新たに作成されたレコードが関連フィールドに表示されなくなります。レコードを表示するには、**ClearQuest Web** または **ClearQuest Eclipse** の [リフレッシュ] ボタンをクリックします。

© Copyright IBM Corporation 2007, 2011

IBM Corporation

Software Group

Route 100

Somers, NY 10589

USA

IBM、IBM ロゴ、Rational、Rational ロゴ、Telelogic、Telelogic ロゴ、他の IBM 製品およびサービスは、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

ALL RIGHTS RESERVED.

Rational Software のホーム ページ ibm.com/software/rational もインターネットでご覧ください。

IBM のホーム ページ ibm.com もインターネットでご覧ください。